



あいさつする浅利清廣会長

1/26

JA役員と 意見を交わす JA青年部

JA役員との意見交換会を開きました。青年部員から令和5年度に実施された支店・営農経済センターの再編やカントリーエレベーター・ライスセンターの受け入れ態勢、鳥獣害対策へのJAの支援など、要望が出され、活発に意見を交わしました。



出来上がったデザートを取り分ける部員

1/25

デザート作りで部員交流 JA女性部川崎中央支部

デザート作りを行い部員と交流を図りました。エダマメを使ったクッキーの「豆ッキー」と牛乳を使った「レアチーズケーキ」や寒い冬に体を温める「生姜の炊き込みご飯」の3品を、それぞれ料理の得意な部員が教え合いながら手際よく調理しました。



レシピを見ながら調理する部員

1/25

家の光掲載レシピに挑戦 JA女性部東山中中央支部

家の光料理教室を開きました。生活シスターの那須野敬子さん（東山）が講師を務め、1品でご飯や野菜、肉がおいしく食べられる「トロピカル☆タコライスコロッケ」や秋冬野菜を使った「カブのみそマヨあえ」など3品を手際よく作り、4年ぶりに会食もしました。



国消国産について理解を深めた研修会

1/24

「国消国産」に理解深める 一関地域農政推進員協議会

令和5年度研修会を開き、一関地域の農政推進員や一関市、JA職員の60人が参加しました。JA岩手県中央会JA支援部の高橋徹部長がJAグループが提唱する「国消国産」の考え方や背景、「国消国産」実践に向けたJAグループの取り組みなどを紹介しました。



おいしいコース料理に舌鼓を打つ部員

1/26

楽しみながらマナー JA女性部千厩中央支部

テーブルマナー講習会を開き、レストランあさひやの原田良一オーナーシェフから食器の置き方や使い方、食事中の会話内容などを学びました。地元産のトウモロコシなどを使ったおいしいメニューに舌鼓を打ちながら、楽しいひとときを過ごしました。



優良生産者表彰の最優秀賞に輝いた島山貴一さん㊦

2/8

選ばれ続ける 産地目指し JAピーマン部会

第24回通常総会を開きました。令和5年度の販売金額は3億8680万円（117.6%）。令和6年度は、産地拡大への取り組み、生産技術の統一による品質向上対策、安全安心な取り組みなどにより、販売金額4億3400万円を目指します。



ナス栽培20年表彰を受ける菅原さん㊦

2/13

産地の維持拡大目指して JAなす生産部会

令和6年度通常総会を開き、ナス栽培20年表彰の菅原定男さん（花泉）をはじめ販売実績が優秀な部会員を表彰しました。令和6年度は栽培マニュアル「なすブック」を活用した栽培技術の高位平準化などに取り組み、販売金額2億3500万円を目指します。



慎重に議案を進める部会員

2/6

秋どりトマトさらに推進 JAトマト部会

第10回通常総会を開き、令和6年度の合言葉を「秋どりトマトでブランド力向上」とし、9・10月の出荷量拡大や品質向上による単価の底上げなどに取り組み、販売金額4億4300万円を目指すことを確認しました。役員改選では村上真さんが部会長に再任しました。



足の指先を使う運動をする参加者

2/3

歩き続けるための ケアを JA女性部藤沢中央支部

第8回女性部交流会を開き、日頃の活動作品展の他、フットケアワーカーの三浦和子さん（藤沢）の指導で足のケアや運動を学びました。部員40人が参加し、歩き続けるために手軽にできる足の運動の他、爪の種類や切り方、マッサージ方法などに理解を深めました。



豆乳を温める工程をする児童

1/30

大豆から豆腐作りを体験 花泉小学校

3年生76人はJA女性部花泉中央支部涌津支部7人の指導で豆腐作りを体験しました。児童はあらかじめ水に浸した大豆をすりつぶし煮た後、豆乳とおからに分け、豆乳を70℃まで温める工程などに挑戦。出来上がった豆腐は分けて容器に入れ、持ち帰りました。



2/20

ブランド力強化 目指して

J A 肥育牛部会

第10回通常総会を開きました。飼料価格の高止まりなど厳しい畜産環境の中、「1頭1頭」を適切に管理し、和牛生産部会と情報共有しながら素牛の能力を最大限発揮させるよう肥育経営に取り組み、出荷頭数6000頭、販売金額7億5000万円を目指します。



販売枝肉単価去勢の部の優良表彰を受ける千葉大さん④

2/15

高品質で安定出荷目指す

J A ミニトマト部会



あいさつする熊谷弘司部会長

令和6年度通常総会を開き、反収向上や作業の効率化などにより、高品質で安定出荷を目指すことなどを決めました。令和6年度は出荷数量71ト、販売金額4819万円を計画。高温対策による収量向上や販売強化、信頼される産地づくりに取り組みます。

2/20

節目を迎え気持ち新たに

J A 養蚕部会



あいさつする佐藤盛部会長④

解散総会を開き、提案された議案全てが可決されました。令和5年度の販売実績は、上繭917キ、販売金額202万円となり、令和6年度からは事業の効率化を図り、活発な活動を継続するため、野菜部会養蚕専門部に継承することなどを決めました。

2/20

今年産に向け防除暦確認

一関農業改良普及センター



防除暦の説明を聞く生産者

令和5年度新技術普及活動検討会を開きました。令和6年度リンゴの良品生産に向け、りんご病害虫防除暦の変更点などを確認した他、今後のリンゴ栽培に役立てるため、令和5年度に岩手県農業研究センターで開発された研究成果なども紹介されました。

2/17

子どもたちの成長願って



米を贈呈する佐藤組長④

J A は地域貢献の一環として「たてやまプラザ」子ども食堂（藤沢）のボランティアなどを「いつてみっぺし藤沢」へ令和5年産米「ひとめぼれ」60キを贈りました。佐藤組長は「将来を担う子どもたちに食と農の大切さも知ってほしい」と語りました。